

# 能田 多代子（のうだ・たよこ）

## 1、プロフィール

民俗学者。出身地である五戸地方を中心に、方言研究、民俗研究を続けた。

<生没>

1890(明治 23)年1月 31 日～1969(昭和 44)年6月 12 日

<代表作>

『五戸の方言』『村の女性』『手つきり姉さま』『青森県五戸語彙』『能田多代子著作集』

<青森との関わり>

三戸郡五戸町生まれ。大正2年に上京。五戸地方の方言を中心に民俗研究の基礎を固めた。

## 2、作家解説

明治 23 年1月、三浦道太郎、すえの長女として五戸町に生まれる。家は造り酒屋を営んでいた。五戸小学校卒業後、同校で代用教員を務めた。大正2年第一雄が仙台の二高に入学したのを機に、上京する。大正9年から鳥谷部陽太郎の「兄弟通信」の発行を手伝う。編集担当であった能田太郎と知り合い結婚。

昭和4年には能田の郷里熊本県南関町に移り、南関の方言を採集、方言集を刊行した。昭和11年能田と死別後は、柳田国男の指導のもと、本格的に民俗学研究の道に入る。方言を採集し、記録してまとめるという地道な作業を続ける。

昭和13年に『五戸の方言－用言から出発して』を国学院大学方言研究会から刊行。18年『村の女性』（三国書房）33年『手つきり姉さま』（未来社）38年私家版『五戸語彙』など南部地方の民俗研究を重ね、42年には『能田多代子著作集』（津軽書房）としてまとめている。36年に県褒賞、42年に東奥賞を受賞。昭和44年6月12日、老衰のため死去。享年79。夫とともに収集した民俗関係蔵書五千点は「能田文庫」として県立図書館に収められている。

### 3、資料紹介

○『青森県五戸語彙』

図書

1963(昭和 38)年2月1日

196 mm × 135 mm

昭和 13 年に出版した『五戸の方言－用言から出発して－』に体言篇を加え、改訂したもの。名詞、動詞、形容詞などを文法的に分類、五十音順に配列している。方言によって生活事実と感情を明らかにしている。昭和 57 年復刻版として『青森県五戸方言集』が出版された。